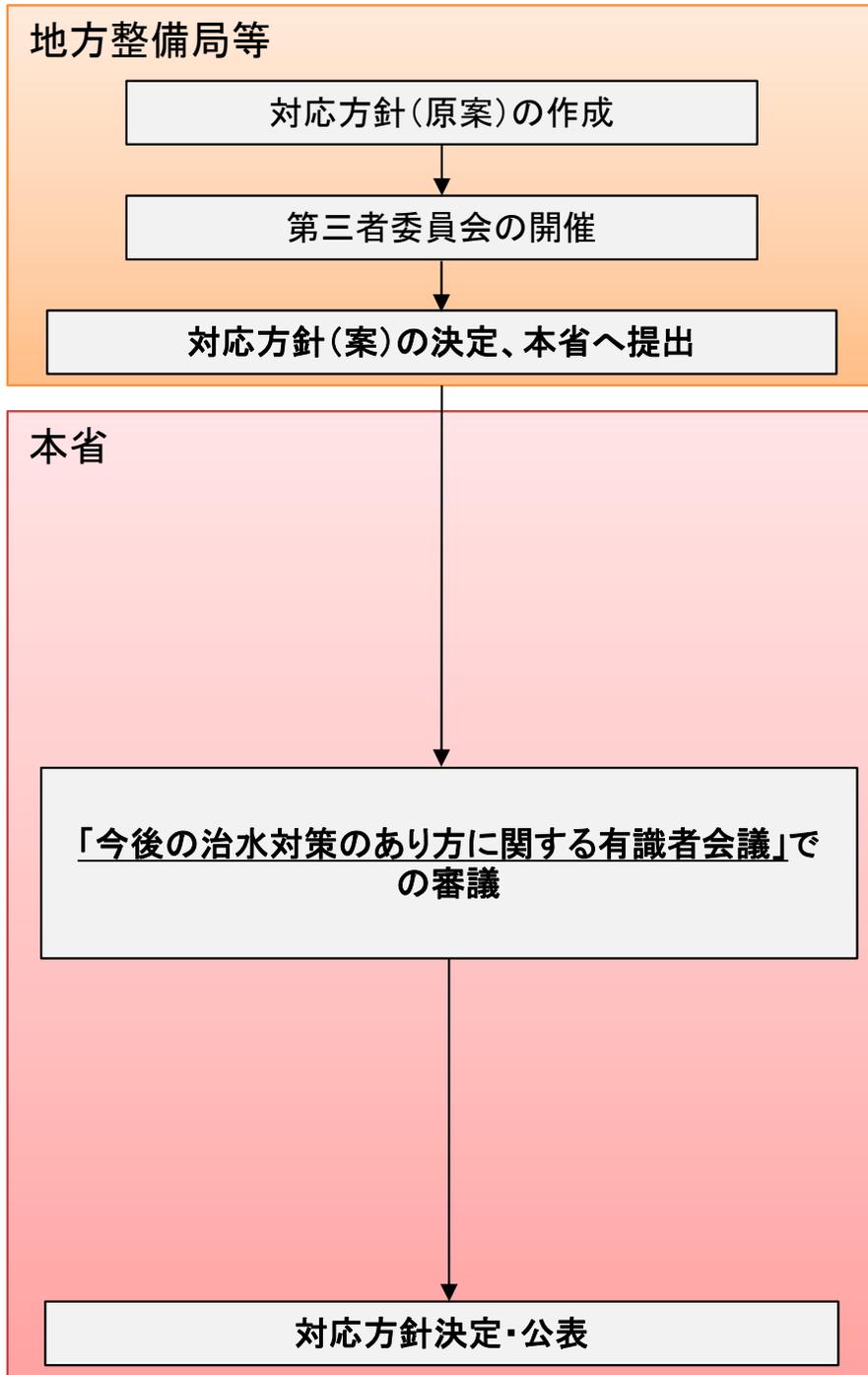


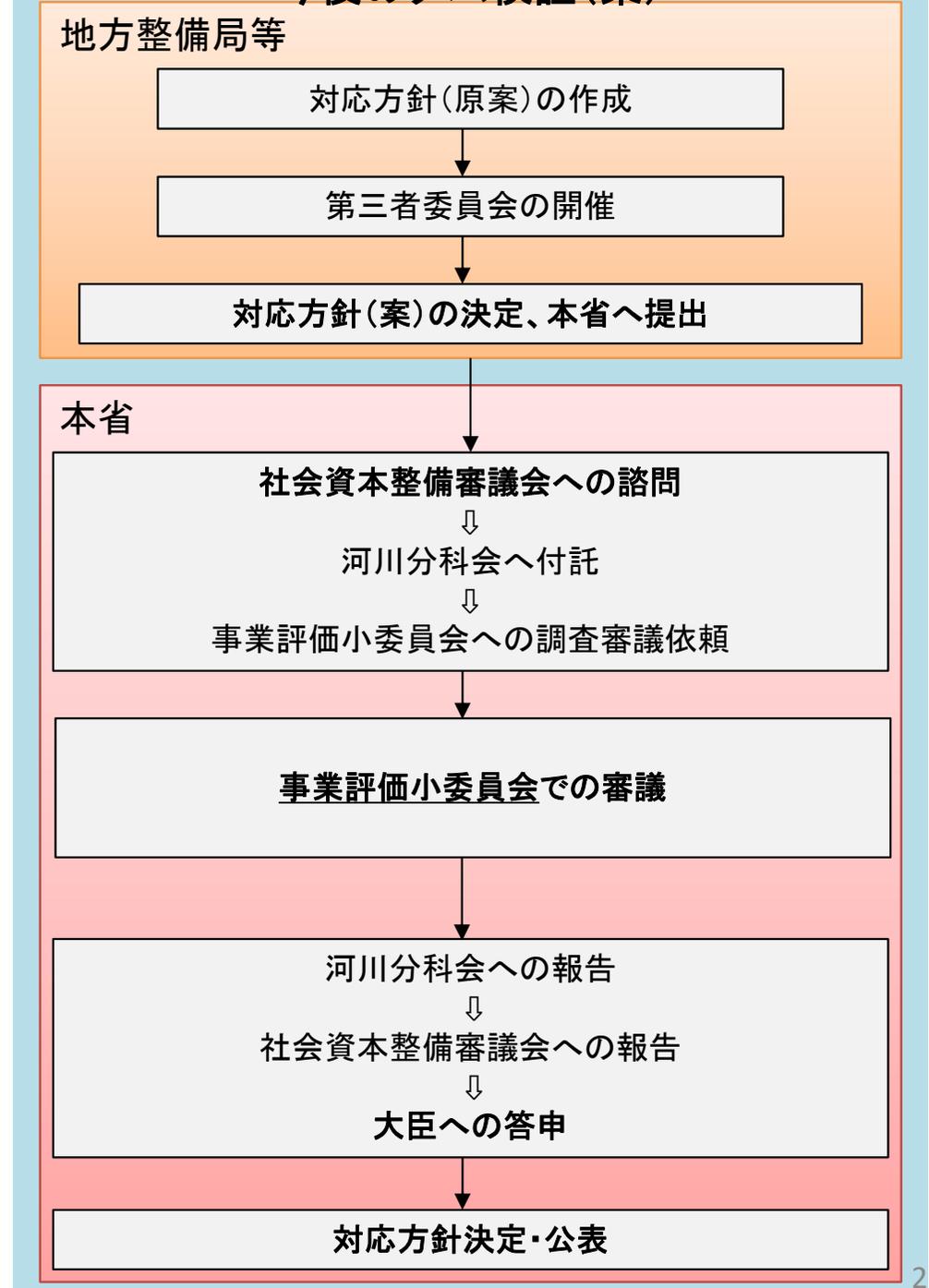
ダム事業の検証に係る検討について

国土交通本省におけるダム事業の検証に関する審議の流れ

従前のダム検証(再評価の枠組みを活用)



今後のダム検証(案)



ダム事業の検証に係る検討に関する再評価の視点

検討項目	検討内容
情報公開、意見聴取等の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・関係地方公共団体からなる検討の場の設置 ・パブリックコメントの実施 ・学識者、関係住民、関係地方公共団体の長、関係利水者の意見聴取
対応方針(案)等の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・事業評価監視委員会での意見聴取 ・対応方針(案)の決定
事業の必要性に関する視点	事業を巡る社会経済情勢等の変化、事業の進捗状況に関する整理
事業の投資効果	治水経済調査マニュアルに基づく費用対効果分析の実施
複数の治水対策案の立案	ダムの有効活用、遊水池等の26案の検討
概略評価による治水対策案の抽出	2～5案程度の抽出
評価軸	安全度、コスト、実現性等の7つの評価軸
利水代替案	河道外貯留施設、ダム再開発等の13の利水代替案の検討
利水に関する評価軸	目標、コスト、実現性等の6つの評価軸
流水の正常な機能の維持の観点からの検討	対策案の立案、評価
その他の目的に応じた検討	必要に応じて検討
総合的な評価の考え方	目的別総合評価の観点(安全度を基本としコストを最も重視)、総合的な評価の考え方

今回対象外

次頁以降詳述

ダム事業の検証に係る検討に関する再評価の視点

■ 利水代替案

河道外貯留施設(貯水池)	河道外に貯水池を設け、河川の流水を導水し貯留することで水源とする。
ダム再開発(かさ上げ・掘削)	既存のダムをかさ上げあるいは掘削することで容量を確保し、水源とする。
他用途ダム容量の買い上げ	既存のダムの他の用途のダム容量を買い上げて容量とすることで水源とする
水系間導水	水量に余裕のある他水系から導水することで水源とする。
地下水取水	伏流水や河川水に影響を与えないよう配慮しつつ井戸の新設等により水源とする
ため池 (取水後の貯留施設を含む)	主に雨水や地区内流水を貯留するため池を配置することで水源とする
海水淡水化	海水を淡水化する施設を設置し水源とする
水源林の保全	水源林の持つ機能を保全し、河川流況の安定化を期待する。
ダム使用权等の振替	需要が発生しておらず、水利権が付与されていないダム使用权等を必要なものに振り替える
既得水利の合理化・転用	用水路の漏水対策、取水施設の改良等による用水の使用量の削減、農地面積の減少、産業構造の変革等に伴う需要減分を、他の必要とする用途に転用する
渇水調整の強化	渇水調整協議会の機能を強化し、渇水時に被害を最小とするような取水制限を行う
節水対策	節水コマなど節水機器の普及、節水運動の推進、工場における回収率の向上等により、水需要の抑制を図る
雨水・中水利用	雨水利用の推進、中水利用施設の整備、下水処理水利用の推進により、河川水・地下水を水源とする水需要の抑制を図る

※「流水の正常な機能の維持の観点からの検討」についても同様の代替案を検討

ダム事業の検証に係る検討に関する再評価の視点

■ 利水に関する評価軸

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利水参画者が必要とする開発量 ・段階的にどのように効果が確保されていくのか ・どの範囲でどのような効果が確保されていくのか ・どのような水質の用水が得られるか
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・完成までに要する費用はどのくらいか ・維持管理に要する費用はどのくらいか ・その他の費用(ダム中止に伴って発生する費用等)はどれくらいか
実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・土地所有者等の協力の見通しはどうか ・関係する河川使用者の同意の見通しはどうか ・発電を目的として事業に参画している者への影響の程度はどうか ・その他の関係者との調整の見通しはどうか ・事業期間はどの程度必要か ・法制度上の観点から実現性の見通しはどうか ・技術上の観点から実現性の見通しはどうか
持続性	<ul style="list-style-type: none"> ・将来にわたって持続可能といえるか
地域社会への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・事業地及びその周辺への影響はどの程度か ・地域振興に対してどのような効果があるか ・地域間の利害の衡平への配慮がなされているか
環境への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・水環境に対してどのような影響があるか ・地下水位、地盤沈下や地下水の塩水化にどのような影響があるか ・生物の多様性の確保及び流域の自然環境全体にどのような影響があるか ・土砂流動がどう変化し、下流の河川・海岸にどのように影響するか ・景観、人と自然との豊かなふれあいにどのような影響があるか ・CO2 排出負荷はどう変わるか

※「流水の正常な機能の維持の観点からの検討」についても同様の代替案を検討

■ 目的別の総合評価

- 1) 一定の「目標」を確保することを基本として、「コスト」を最も重視する。なお、「コスト」は完成までに要する費用のみでなく、維持管理に要する費用等も評価する。
- 2) また、一定期間内に効果を発現するか、など時間的な観点から見た実現性を確認する。
- 3) 最終的には、環境や地域への影響を含めて全ての評価軸により、総合的に評価する。

■ 検証対象ダムの総合的な評価

各目的別の検討を踏まえて、検証の対象とするダム事業に関する総合的な評価を行う